

社会資本総合整備計画
「ニセコ町のコミュニティ活性化と安全・安心な街づくり」
【平成23～27年度】
事後評価シート

- ・ニセコ市街地区都市再生整備計画事業
【平成23～27年度】

平成28年2月

北海道ニセコ町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道	市町村名	ニセコ町	地区名	ニセコ町のコミュニティ活性化と安全・安心な街づくり	面積	158.6ha					
交付期間	平成23年度～平成27年度	事後評価実施時期	平成27年度	交付対象事業費	991.9百万円	国費率	40%					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	A基幹事業	都市再生整備計画事業	地域生活基盤施設:広場(ニセコ駅前倉庫群)、高質空間形成施設:LED防犯灯整備(ニセコ市街地)、高次都市施設(ニセココンベンションセンター)、既存建造物活用事業(ニセコ駅前倉庫群)、地域創造支援事業:総合体育館機能向上事業・運動公園機能向上事業・コミュニティFM局設置事業								
		B関連社会資本整備事業	なし									
		C効果促進事業	なし									
	当初計画から削除した事業	A基幹事業	都市再生整備計画事業	地域創造支援事業:公衆無線LAN設置事業	事業費の精査に伴い、従前より安価な機材により事業が可能のため、交付金対象とせず、直営で設置することとしたため。	影響なし						
				事業活用調査:事業効果分析	直営により事業効果分析を行うこととしたため。	影響なし						
				まちづくり活動推進事業:統合型GISシステム導入	役場内関係各課にて個別GISシステムを導入済みであるため。	影響なし						
		B関連社会資本整備事業	なし	-	-							
		C効果促進事業	なし	-	-							
	新たに追加した事業	A基幹事業	都市再生整備計画事業	地域生活基盤施設:広場(ニセコ駅前倉庫群)	既存建造物活用事業として整備する倉庫群は交流センターとして再活用することになるが、倉庫群の中央にある空き地については、交流センターとともに他の団体等が広く利用できる「広場」として、既存建造物活用事業から分離して整備することとしたため。	影響なし						
		B関連社会資本整備事業	なし	-	-							
C効果促進事業		LED防犯灯整備	高質空間形成施設としてLED防犯灯を整備するニセコ市街地区のみならず、郊外の農業・観光地域にもLED防犯灯を整備し、町内全域について安全・安心で統一のとれた町並みを形成することとしたため。	影響なし								
交付期間の変更	当初	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
	変更											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	コンベンションセンターの利用者数	人/年	24,330	H21	29,200	H27	62,033	○	あり なし	平成24年4月1日に町民センターがリニューアルして開館し、町民意見を反映した施設の増改築や設備の向上により、会議の開催や町内文化団体等による利用が増加したため、指標の達成につながった。	平成28年4月
指標2	地域の情報通信環境に対する評価	アンケートによる%	43.6	H22	50	H27	48.3	×	あり なし	○	平成24年3月31日にコミュニティFM局が開局し、行政情報・防災情報や地域の情報を住民等に早くかつ広く周知することが可能となった。にもかかわらず、目標値を超えるような改善にはつながらなかった。その原因として、地区的な評価のばらつきが、全体としての評価向上を鈍らせていると推測される。本指標は全町を対象とした満足度だが、地区別に見ると、市街地区では51.7、有島地区では52.7と、目標値50を超えている地区もあった。逆に、南西地区では41.2と低下している。その背景としては、地形的な制約要因によって、地デジの難視聴地区があったこと、また、コミュニティFM放送による地域情報網として導入されたラジオニセコにおいても、難聴地区があったことなど(現在は解消されている)が想定される。	-

	指標3	昼夜間をとおした安全・安心に対する評価	アンケートによる%	44.5	H22	50	H27		40.9	×	あり なし	○	平成24～25年度にニセコ市街地区で344基、平成26～27年度にニセコ市街地区以外の地区で250基、合計594基の防犯灯がLED化された。にもかかわらず、目標値に届かなかったばかりか、むしろ、従前値よりも低下した。この背景については、アンケート調査の質問文の中に、「歩道などの安全性」という字句があることから、回答の評価根拠が、「LED」よりも「歩道」の整備に対する評価に重点がおかれている状況が想定される。そのことに関連して、地区別の歩道の整備状況に対する評価の偏りが顕著に見られたことにより、町全体としての評価が大きく低下したと思われる。	-
3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	その他の数値指標1	「環境の保全・創造」全体についての満足度	アンケートによる%	44.0	H22			モニタリング	評価値			町内全域において全ての防犯灯がLED防犯灯に切り替わった(594基)。このことにより、従来は様々な意匠の照明器具が混在していた防犯灯のデザインが統一され、高質な街並みを創造することができたため、指標の達成につながった。	-	
	その他の数値指標2													
	その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年4月1日にリニューアルし開館した町民センターでは、大ホールでのイベントや会議、小ホールでの町民講座、各種研修室での町民団体の利用等が増加するとともに、日常的に利用できるフリースペースでの町民や学生の利用も多く見られ、コミュニティの活性化やまちの魅力の向上がもたらされている。隣接する体育施設が改修され、地域の賑わいももたらされている。 平成24年3月31日に開局したコミュニティFM局では、行政情報や防災情報をはじめ地域の情報を早く広く周知している。また、町民有志による劇団によりラジオドラマが放送されたり、さまざまな分野で活躍する町民が出演したりして、地域コミュニティの活性化と、放送局の立地する駅前賑わいにもつながっている。 平成24～27年にかけて町内全域について594基のLED防犯灯が整備され、昼夜間をとおした道路の安全・安心が増加した。また、従前のさまざまな形状の照明器具のデザインが統一されたことで、全町的に高質な空間を整備することができ、町民や観光客に良好な景観を提供することができた。 駅前の農業用倉庫群が広場と交流センターとして整備されたことにより、町の産業の歴史を継承するとともに、駅前地区の賑わいの創出と町民相互や観光客との交流を図ることができている。 													
5)実施過程の評価	モニタリング	なし	実施内容	実施状況		今後の対応方針等								
	住民参加プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 町民センター改修基本設計意見交換会を開催し、町民センターの改修のあり方や改修規模及び施設改修の詳細等について、町民意見の反映を行った。 ニセコ町中央倉庫群再活用基本設計検討委員会を開催し、再活用に向けた計画の策定や施策・事業の検討に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 	●	町民センターや駅前倉庫群の活用について、引き続き官民連携による取り組みを進めていく。								
	持続的なまちづくり体制の構築	駅前倉庫群の再活用の際し、町民有志により「NPO法人ニセコ倉庫邑」が設立され、継続的にイベント等を開催している。	<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 	●	官民共同により、地域コミュニティの活性化、賑わいの創出に努める。									

様式2-2 地区の概要

ニセコ町のコミュニティ活性化と安全・安心な街づくり(北海道ニセコ町) 社会資本総合整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
賑わいとコミュニティ活性化に寄与する施設・情報等基盤の整備と安全・安心で美しい街づくりの推進	コンベンションセンターの利用者数	単位:人/年	24,330 H21	29,200 H27	62,033 H27
	地域の情報通信環境に対する評価	単位:%	43.6 H22	50 H27	48.3 H27
	昼夜間を通じた安全・安心に対する評価	単位:%	44.5 H22	50 H27	40.9 H27
	「環境の保全・創造」全体についての満足度	単位:%	44.0 H22	52.7	H27
		単位:	H	H	H



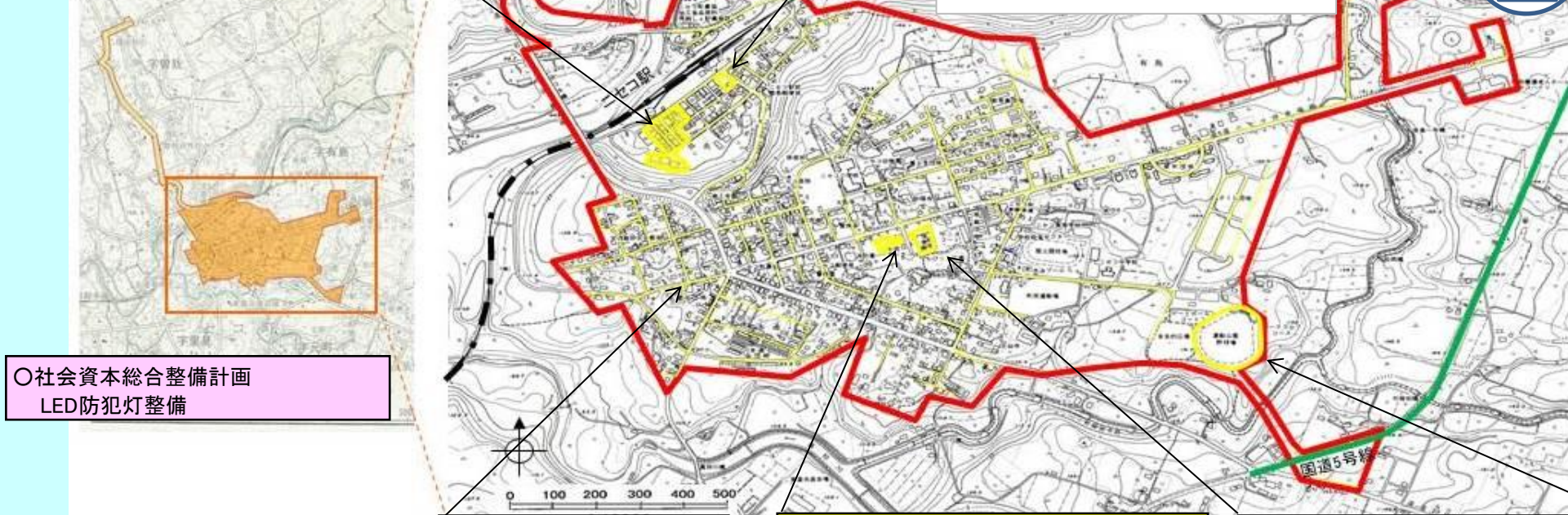
①コンベンションセンターの整備
上:全景、中:センターホール
下:大ホール

○都市再生
地域生活基盤施設
(ニセコ駅前倉庫群多目的広場整備事業)

○都市再生
既存建築物活用事業
(ニセコ駅前倉庫群整備事業)

②都市再生
地域創造支援事業
(コミュニティFM局設置事業)

凡例
 都市再生整備計画区域
 基幹事業
 効果促進事業
 関連事業



○社会資本総合整備計画
LED防犯灯整備

○関連事業
道道ニセコ停車場線歩道整備事業
公衆無線LAN設置事業

○都市再生
高質空間形成施設
(LED防犯灯整備事業)

①都市再生
高次都市施設
(ニセココンベンションセンター整備事業)

○都市再生
地域創造支援事業
(総合体育館機能向上事業)

③都市再生
地域創造支援事業
(運動公園機能向上事業)



②コミュニティFM局の設置



③運動公園の機能向上

まちの課題の変化

- ・課題1:コンベンション拠点の整備→既存の町民センターを増改築し、より町民に使いやすく、大規模な会議等を誘致しやすいコンベンション拠点として整備することができた。
- ・課題2:近代的遺産的施設を活用した観光客と地域住民の文化交流拠点の整備→町の産業の歴史を伝える農業用倉庫2棟を改築し、観光客と町民とが交流できる文化交流拠点として整備することができた。今後は、民間主体による管理運営体制の構築と持続可能な運営が課題である。
- ・課題3:運動拠点の充実→既存の総合体育館及び運動公園野球場を改修し、より町民に使いやすく、大会等を誘致しやすいよう、機能を向上することができた。
- ・課題4:地域情報の受発信を支える情報通信ツール・基盤の整備→コミュニティFM放送局を整備し、町内全域に地域情報を受発信する基盤を整備することができた。今後は、地形等によりラジオが聞こえにくい場所への対応が課題である。
- ・課題5:昼夜間の安全・安心で環境に優しい街づくりのための防犯灯の施設高度化→町内の全ての防犯灯についてLED防犯灯に改修し、安全・安心で環境に配慮した街並みを創造することができた。今後は、更なる街並み景観づくりの推進が課題である。
- ・課題6:町民によるまちづくり活動の支援→コンベンション施設、文化交流拠点の整備及びコミュニティFMの整備により、町民のまちづくり活動の拠点となる施設や情報の受発信ツールが整備され、まちづくり活動を支援することができた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・コンベンションセンター(町民センター)について、より町民に親しまれる施設として、日常的な利用促進を図る。
- ・コミュニティFMについて、より住民に親しまれるよう、放送内容の更なる充実を図る。また、電波状況に左右されないパソコンやスマートフォンによる聴取についてPR等を行う。
- ・駅前倉庫群について、公設民営を基本とし、町と管理運営主体との協働による施設の利活用を図る。
- ・更なる街並み景観づくりを推進し、ニセコらしい都市景観の充実を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

A 基幹事業											
事業種別	事業分類	事業名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況		
			事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み	
都市再生整備計画	道路										
	公園										
	河川										
	下水道										
	駐車場有効利用システム										
	地域生活基盤施設	ニセコ駅前倉庫群	0		62	多目的広場の整備	駅前倉庫群の広場について、既存建造物活用事業から、地域生活基盤施設での整備計画に変更した	影響なし		●	
	高質空間形成施設	ニセコ市街地	122	LED防犯灯730基の整備	35	LED防犯灯344基の整備	都市再生整備計画区域外に設置するLED防犯灯について、高質空間形成施設から、効果促進事業での整備計画に変更した	影響なし		●	
	高次都市施設	ニセココンベンションセンター	56	多目的ホール、自然エネルギー整備、コンベンション対応会	508	多目的ホール、自然エネルギー整備、コンベンション対応会	事業実施に伴う事業費の変更	影響なし		●	
	既存建造物活用事業	ニセコ駅前倉庫群	1,000	観光交流センター7棟の整備	177	地域交流センター・観光交流センター2棟の整備	劣化・耐震性調査の結果等により、整備する倉庫の棟数が7棟から2棟に減少した。また、広場の整備を地域生活基盤施設として整備することとした。	当初7棟の倉庫について整備する予定だったが、5棟の倉庫について交付金事業としての活用はできなかった。しかし、劣化の程度が激しく取り壊したものは1棟のみで、その他の4棟は民間事業者が活用するなど利活用されているため、まちづくり目標について大きな影響はないと考える			●
	都市再生交通拠点整備事業										
土地区画整理事業(都市再生)											
住宅市街地総合整備事業											
地域創造支援事業	総合体育館機能向上事業		60	アリーナ使用者の待合所改修・トイレ改修	28	アリーナ使用者の待合所改修・トイレ改修	工事のうち機能向上に当たらない部分を除いたことによる事業費の変更	影響なし		●	
	運動公園機能向上事業		47	スコアボード電光掲示板改修・バックスクリーン嵩上げ改修	50	スコアボード電光掲示板改修・バックスクリーン嵩上げ改修	事業実施に伴う事業費の変更	影響なし		●	
	コミュニティFM局設置事業		95	放送局の建設・スタジオ設営・アンテナ設置	98	放送局の建設・スタジオ設営・アンテナ設置	事業実施に伴う事業費の変更	影響なし		●	
	公衆無線LAN設置事業		5	公衆無線LANの構築	0		直営で設置したことによる事業の削除	影響なし	-		-
	事業活用調査	事業効果分析(社会資本整備総合交付金評価委員会)		1	評価委員費用弁償・謝礼、資料作成等	0		直営で実施したことによる事業の削除	影響なし	-	
まちづくり活動推進事業	統合型GISシステム導入		16	統合型GISの構築・導入	0		個別型GISを導入したことによる事業の削除	影響なし	-		-
合計			1,907.0		958.0						

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無		
			基準 年度		基準 年度		目標 年度					あり	なし			
指標1	コンベンションセンターの利用者数	人/年	町民センターの年間利用者数の集計値を評価値とする(町民センターの利用者が事前に提出した利用申込書にある人数を集計する。11月から3月までの利用者については、前年度の4月から11月までの利用者数と今年度の同時期の利用者数との増減率を、前年度の12月から3月までの利用者数に掛けて推計する)	-	-	24,330	H21	29,200	H27	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定		62,033	事後評価		
指標2	地域の情報通信環境に対する評価	%	アンケート調査による(町民約4,800人から抽出した1,500人へ郵送により調査表を送付し、郵送で回答をいただき、集計する)「情報共有の仕組み」「行政情報の質の向上」「通信環境の整備」にかかる満足度の平均値を評価値とする	-	-	43.6	H22	50	H27	モニタリング	-	-	モニタリング	-		●
										事後評価	確定	●	48.3	事後評価		
指標3	昼夜間を通じた安全・安心に対する評価	%	アンケート調査による(町民約4,800人から抽出した1,500人へ郵送により調査表を送付し、郵送で回答をいただき、集計する)「歩道などの安全性」にかかる満足度を評価値とする	-	-	44.5	H22	50	H27	モニタリング	-	-	モニタリング	-		●
										事後評価	確定	●	40.9	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	コンベンションセンター(ニセコ町民センター)の月別利用者数から算出した、評価項目「コンベンションセンターの利用者数」は、従前値(H21)24,330を受けて、目標値(H27)を29,200としたが、達成状況(H27)は62,033となり、目標値を大きく上回った。	-
指標2	住民アンケート調査から算出した、評価項目「地域の情報通信環境に対する評価」に該当する評価指標は、従前値(H22)43.7を受けて、目標値(H27)を50としたが、達成状況(H27)は48.3であった。+4.6の向上となったが、目標値にはわずかに及ばなかった。	本指標は全町を対象とした満足度だが、地区別に見ると、市街地区では51.7、有島地区では52.7と、目標値50を超えている地区もあった。
指標3	住民アンケート調査から算出した、評価項目「昼夜間をとおした安全・安心に対する評価」に該当する評価指標は、従前値(H22)44.5を受けて、目標値(H27)を50としたが、達成状況(H27)は40.9であった。-3.6の減少となり、目標値には及ばなかった。	住民アンケート調査の質問文を「周辺の道は歩道などの安全性が確保されているかについて」としているため、「LED」よりも「歩道」の整備に対する評価に重点がおかれている状況が想定される。このため、その他指標による補完を行う。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
		基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	モニタリング	事後評価	見込み			
その他の数値指標1	「環境の保全・創造」全体についての満足度	%	アンケート調査による(町民約4,800人から抽出した1,500人へ郵送により調査表を送付し、郵送で回答をいただき、集計する)「『環境の保全・創造』全体について」にかかる満足度を評価値とする	-	-	44.0	H22	モニタリング -	52.7	目標である「昼夜通した安全・安心を支える環境に優しい街づくりの推進」に対する事業実施効果をはかるため	LED防犯灯の設置による街並みの高質空間化についての評価値として、本指標により指標3を補完する

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・平成24年4月1日にリニューアルし開館した町民センターでは、大ホールでのイベントや会議、小ホールでの町民講座、各種研修室での町民団体の利用等が増加するとともに、日常的に利用できるフリースペースでの町民や学生の利用も多く見られ、コミュニティの活性化やまちの魅力の向上がもたらされている。隣接する体育施設が改修され、地域の賑わいももたらされている。
- ・平成24年3月31日に開局したコミュニティFM局では、行政情報や防災情報をはじめ地域の情報を早く広く周知している。また、町民有志による劇団によりラジオドラマが放送されたり、さまざまな分野で活躍する町民が出演したりして、地域コミュニティの活性化と、放送局の立地する駅前の賑わいにもつながっている。
- ・平成24～27年にかけて町内全域について594基のLED防犯灯が整備され、昼夜間をとおした道路の安全・安心が増加した。また、従前のさまざまな形状の照明器具のデザインが統一されたことで、全町的に高質な空間を整備することができ、町民や観光客に良好な景観を提供することができた。
- ・駅前の農業用倉庫群が広場と交流センターとして整備されたことにより、町の産業の歴史を継承するとともに、駅前地区の賑わいの創出と町民相互や観光客との交流を図ることができている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
-	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	-	-

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
・町民センター改修基本設計意見交換会を開催し、町民センターの改修のあり方や改修規模及び施設改修の詳細等について、町民意見の反映を行った。 ・二セコ町中央倉庫群再活用基本設計検討委員会を開催し、再活用に向けた計画の策定や施策・事業の検討に取り組んだ。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	【実施時期・回数】 町民センター改修基本設計意見交換会：平成21年度に2回開催 二セコ町中央倉庫群再活用基本設計検討委員会：平成23年度に4回開催 【実施効果】 施設の計画段階から、基本理念や管理運営のあり方などの検討について、町内の各種団体や地域の代表者および一般町民が参画した。このことにより、より町民に親しめる施設となることが期待され、既に完成した町民センターについては、日常的な利用も見られる。	町民センターや駅前倉庫群の活用について、引き続き官民連携による取組みを進めていく。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
駅前倉庫群の再活用之际し、町民有志により「NPO法人ニセコ倉庫邑」が設立され、継続的にイベント等を開催している。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	・駅前倉庫群の管理運営について、町とNPO法人との間で協議を重ねている。	「特定非営利活動法人ニセコ倉庫邑」： 駅前倉庫群に残る歴史遺産を後世に伝えるための環境保全と利活用を行うとともに、活力ある街づくりを推進するための組織。町との協働により、倉庫群を舞台に、既にいくつかのイベントを行っている。(理事：地元有志)	官民共同により、地域コミュニティの活性化、賑わいの創出に努める。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
二セコ町社会資本総合整備計画検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・建設課 都市計画係 ・町民生活課 町民生活係 ・企画環境課 広報広聴係 ・町民学習課 スポーツ係 	第1回 平成27年12月10日	建設課 都市計画係

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	その他指標1						
指標名		コンベンションセンターの利用者数	「環境の保全・創造」全体についての満足度						
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
A基幹事業	都市再生	地域生活基盤施設:二セコ駅前倉庫群	-	平成24年4月1日に町民センターがリニューアルして開館し、町民意見を反映した施設の増改築や設備の向上により、イベント・会議の開催や町内文化団体等による利用が増加したため、指標の達成につながった。	-	町内全域において全ての防犯灯がLED防犯灯に切り替わった(594基)。このことにより、従来は様々な意匠の照明器具が混在していた防犯灯のデザインが統一され、高質な街並みを創造することができたため、指標の達成につながった。	-		
		高質空間形成施設:二セコ市街地	-		◎				
		高次都市施設:二セココンベンションセンター	◎		-				
		既存建造物活用事業:二セコ駅前倉庫群	○		-				
		地域創造支援事業:総合体育館機能向上事業	○		-				
		地域創造支援事業:運動公園機能向上事業	-		-				
		地域創造支援事業:コミュニティFM局設置事業	-		-				
B関連社会資本整備事業									
C効果促進事業	LED防犯灯整備	-		◎					
その他関連事業	道道二セコ停車場線歩道整備事業	○		○					
	公衆無線LAN設置事業	-		-					

※指標改善への貢献度

- ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- :事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	町民に親しまれ、日常的に活用されるとともに、イベント・会議・大会などの開催を誘致する施設として、活用を図っていく。	防犯灯整備に対する更なる認知促進や、道路・防犯灯・建築物・屋外広告物等を含めたまちなみ全体の景観づくりを推進していく。		
-------	---	---	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2			指標3			指標○			指標○		
指標名		地域の情報通信環境に対する評価			昼夜間を通じた安全・安心に対する評価								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
A基幹事業	都市再生	地域生活基盤施設:ニセコ駅前倉庫群	-	地区的な評価のばらつきが、全体としての評価向上を鈍らせている。本指標は全町を対象とした満足度だが、地区別に見ると、市街地区では51.7、有島地区では52.7と、目標値50を超えている地区もあった。逆に、南西地区では41.2と低下している。その背景としては、地形的な制約要因によって、地デジの難視聴地区があったこと、また、コミュニティFM放送による地域情報網として導入されたラジオニセコにおいても、難聴地区があったことなど(現在は解消されている)が想定される。	I	△	本事業においては、目標値に届かなかったばかりか、むしろ、従前値よりも低下した。この背景については、アンケート調査の質問文の中に、「歩道などの安全性」という字句があることから、回答の評価根拠が、「LED」よりも「歩道」の整備に対する評価に重点がおかれている状況が想定される。そのことに関連して、地区別の歩道の整備状況に対する評価の偏りが顕著に見られたことにより、町全体としての評価が大きく低下したと思われる。	I					
		高質空間形成施設:ニセコ市街地	-			△							
		高次都市施設:ニセココンベンションセンター	△			-							
		既存建造物活用事業:ニセコ駅前倉庫群	△			△							
		地域創造支援事業:総合体育館機能向上事業	△			△							
		地域創造支援事業:運動公園機能向上事業	-			△							
		地域創造支援事業:コミュニティFM局設置事業	△			-							
B関連社会資本整備事業													
	LED防犯灯整備	-			△								
C効果促進事業													
	道道ニセコ停車場線歩道整備事業	-			△								
その他関連事業	公衆無線LAN設置事業	△			-								

※目標未達成への影響度
 ××:事業が効果を発揮せず、



指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×: 事業が効果を発揮せず、
 指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △: 数値目標が達成できなかった中でも、
 ある程度の効果をあげたと思われる。
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが
 明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

<p>改善の方針 (記入は必須)</p>	<p>コミュニティFMについて、行政情報のより迅速で分かりやすい伝達を行うとともに、地域の問題を取り上げたり、住民が参加する番組を増やしたりするなど、より地域に親しまれる放送内容となるよう改善していく。 なお、町内に散在する地形等によりラジオが聞こえにくい場所への対応として、電波状況に左右されないパソコンやスマートフォンによる聴取についてPR等を行う。 また、その他の情報媒体である広報誌やメール、WEBなどによる広報内容について、より一層の充実を図るとともに、SNSなどの情報媒体の活用を推進していく。</p>	<p>指標設定時には、課題—目標—事業等との関連性を確認し、適切な指標設定に努める。 LED防犯灯整備による成果について町民に具体的に周知するとともに、道路・防犯灯・建築物・看板等を含めたまちなみ全体の景観づくりを推進していく。</p>		
--------------------------	---	---	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
ニセコ町社会資本総合整備計画検討委員会	・建設課 都市計画係 ・町民生活課 町民生活係 ・企画環境課 広報広聴係 ・町民学習課 スポーツ係	第1回 平成27年12月10日	建設課 都市計画係

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
コンベンション拠点の整備	既存の町民センターを増改築し、より町民に使いやすく、イベントや会議・大会等を誘致できるコンベンション拠点を整備(a)することができた。	なし	なし
近代的遺産的施設を活用した観光客と地域住民の文化交流拠点の整備	町の産業の歴史を伝える農業用倉庫2棟を改築し、観光客と町民とが交流できる文化交流拠点として整備することができた。	民間主体による管理運営体制の構築と持続可能な運営(c)	
運動拠点の充実	既存の総合体育館及び運動公園野球場を改修し、より町民に使いやすく、大会等を誘致しやすいよう、機能を向上することができた。	なし	
地域情報の受発信を支える情報通信ツール・基盤の整備	コミュニティFM放送局を整備し、町内全域に地域情報を受発信する基盤を整備(b)することができた。	地形等によりラジオが聞こえにくい場所への対応(d)	
昼夜間の安全・安心で環境に優しい街づくりのための防犯灯の施設高度化	町内の全ての防犯灯についてLED防犯灯に改修し、安全・安心で環境に配慮した街並みを創造することができた。	更なる街並み景観づくりの推進(e)	
町民によるまちづくり活動の支援	コンベンション施設、文化交流拠点の整備及びコミュニティFMの整備により、町民のまちづくり活動の拠点となる施設や情報の受発信ツールが整備され、まちづくり活動を支援することができた。	なし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	(a)コンベンション拠点の整備	・町民に親しまれる施設として、コンベンションセンターの日常的な利用促進を図る。	・施設のPRやイベントの実施 ・効果的な施設の維持管理
	(b)地域情報を受発信する基盤を整備	・より住民に親しまれるよう、放送内容の更なる充実を図る。	・住民により身近な生活情報の放送 ・住民参加型の番組の作成 ・その他の情報媒体による広報の充実

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	(c)民間主体による管理運営体制の構築と持続可能な運営	・公設民営を基本とし、町と管理運営主体との協働による施設の利活用を図る。	・町と管理運営主体による利活用方策の検討 ・地域に親しまれるイベントの企画・実施
	(d)地形等によりラジオが聞こえにくい場所への対応	・電波状況に左右されないパソコンやスマートフォンによる聴取についてPR等を行う。	・地形等によりラジオが聞こえにくい場所の把握 ・電波状況に左右されないパソコンやスマートフォンによる聴取方法についてのPR
	(e)更なる街並み景観づくりの推進	・ニセコらしい都市景観の更なる充実を図る。	・防犯灯整備による街並みづくりの周知 ・法律・条例・ガイドライン等による景観の保護と創造

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

- 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
- 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
- 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
- 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
- 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	コンベンションセンターの利用者数	人/年	24,330	H21	29,200	H27	確定	●	62,033	○	あり	平成28年4月	利用者の集計による	
							見込み	●			なし			
指標2	地域の情報通信環境に対する評価	%	43.6	H22	50	H27	確定	●	48.3	×	あり			コミュニティFMについて、行政情報のより迅速で分かりやすい伝達を行うとともに、地域の話題を取り上げたり、住民が参加する番組を増やしたりするなど、より地域に親しまれる放送内容となるよう改善していく。 なお、町内に散在する地形等によりラジオが聞こえにくい場所への対応として、電波状況に左右されないパソコンやスマートフォンによる聴取についてPR等を行う。 また、その他の情報媒体である広報誌やメール、WEBなどによる広報内容について、より一層の充実を図るとともに、SNSなどの情報媒体の活用を推進していく。
							見込み				なし	●		
指標3	昼夜間を通じた安全・安心に対する評価	%	44.5	H22	50	H27	確定	●	40.9	×	あり			指標設定時には、課題－目標－事業等との関連性を確認し、適切な指標設定に努める。 LED防犯灯整備による成果について町民に具体的に周知するとともに、道路・防犯灯・建築物・看板等を含めたまちなみ全体の景観づくりを推進していく。
							見込み				なし	●		
その他の数値指標1	「環境の保全・創造」全体についての満足度	%	44.0	H22			確定	●	52.7					LED防犯灯の設置による街並みの高質空間化についての評価値として、本指標により指標3を補完する。
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	コンベンションセンターについて、目標値を大きく上回る実績となった。	コンベンションセンターの成功要因を分析し、今後の公共施設の整備の際に活用する。
	うまく いかなかった点	特になし	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	特になし	指標設定時には、課題-目標-事業等との関係性を確認し、適切な指標設定に努めること。
	うまく いかなかった点	指標3について、アンケート調査の質問項目の文言から、事業の直接的効果を計測することができなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	施設計画や運営など、多くの機会で町民意見を反映したコンベンションセンターとなった。また、駅前倉庫群でも計画の白紙段階から町民意見を反映した設計とすることができた。	今後も、施設計画やまちづくりに、町民意見を取り入れ、町民に親しまれる公共施設の整備に努める。
	うまく いかなかった点	特になし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	特になし	-
	うまく いかなかった点	特になし	
その他	うまくいった点	特になし	-
	うまく いかなかった点	特になし	

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	平成27年12月22日～平成28年1月12日	平成27年12月22日～平成28年1月12日	担当課への郵便・電子メール等	建設課都市計画係
広報掲載・回覧・個別配布	コミュニティFMにて放送(町ホームページ及び建設課で供覧している旨を放送)	平成27年12月30日(朝・夕)	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	建設課窓口において供覧	平成27年12月22日～平成28年1月12日	平成27年12月22日～平成28年1月12日		

住民の意見	・特になし				
-------	-------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	葛西 奈津子 (北海道大学 高等教育推進機構 特任准教授)	平成28年2月16日	建設課 都市計画係	ニセコ町まちづくり交付金評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	・ニセコ町議会産業建設常任委員会委員長 ・ニセコ町都市計画審議会委員 ・ニセコ町広報広聴検討委員会委員				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・指標1のコンベンション(町民)センター施設の年間利用者数を推計するにあたり、前年度に比較して利用者数に大きな変動を及ぼすようなイベントや長期休館等の有無について質問があり、特に無かった旨を説明し理解を得た。
	成果の評価	・コミュニティFMについて、特に災害時には役に立っていること、また、LED防犯灯について、従来よりも照度が増したため、特に子どもの下校時間帯などの安全性が増した、との意見があり、定性的な効果発現状況について補完することができた。 ・LED防犯灯については、従来よりも電気料金が大幅に減少したことと、夏季に虫が集まりにくくなったことについても、大きく評価できるとの意見があった。 ・コンベンション(町民)センターについては、利用者が多すぎて予約が取りにくいほどであること、また、LED防犯灯については照明器具のデザインは統一されたが、器具の色彩をニセコらしい色に塗るべきだった、との意見があり、今後の施設整備や景観対策等の際に参考にさせてもらうこととした。
	実施過程の評価	・倉庫群の再活用について、民間事業者の活用している倉庫と交流センターとして活用する倉庫について、周辺の施設や町内会なども含め、駅前地区として一体感をもって活用していくべきとの意見があり、今後の施設運営の際に参考にさせてもらうこととした。
	効果発現要因の整理	・コミュニティFMについて、町内に散在する地形等によりラジオが聞こえにくい場所への対応として、電波状況に左右されないパソコンやスマートフォンによる聴取についてPR等を行うべき、との意見があり、改善の方針のなかで整理した。 ・LED防犯灯について氷雪による害の有無について質問があり、寒冷地対応タイプの器具のため特に問題ない旨を説明し理解を得た。
	事後評価原案の公表の妥当性	・原案の公表についてコミュニティFMで周知したが、広報誌等でも周知すべきとの意見があり、今後の広報広聴の際に参考にさせてもらうこととした。
	その他	・特に無し
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・手続きは適切に進められたことが確認された。

今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベンション(町民)センターは断熱性能を改善している施設だが、外国に比べると評価できるレベルに達していないので、将来の改善を希望するとの意見があり、今後の施設整備の際に参考とさせていただくこととした。 ・事業全体で様々なハード整備を行ったが、今後は運営の部分を充実させる必要があるとの意見があり、また、今後同様の事業を計画する際にはまち全体の視点から十分に時間をかけて準備・検討するようにとの意見があり、今後のまちづくりの際に参考にさせていただくこととした。
	フォローアップ	・特に無し
	その他	・交付金事業についてはこのような評価委員会があるが、今後は個別の事業について費用対効果などを検証する場を設けるべきとの意見があり、今後のまちづくりの際に参考にさせていただくこととした。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策の方向性について、適切であることが確認された。
その他	・特に無し	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--